

報道関係各位
プレスリリース

2026 年 1 月 6 日
株式会社 Liberaware

Liberaware、日本下水道協会へ入会 ～IBIS2 を下水道調査の“標準モデル”として普及させる活動を推進～

株式会社 Liberaware（代表取締役：関 弘圭、以下「当社」）は、公益社団法人 日本下水道協会に入会しました。下水道調査分野における新技術の社会実装を進めるとともに、当社開発の狭小空間点検ドローン「IBIS2」（以下「IBIS2」）の標準化に向けた取り組みを加速してまいります。



■背景・入会に至った経緯

2025 年 1 月の埼玉県八潮市での道路陥没事故を受け、下水道構造物の内部や狭小部など従来の点検手法では確認が困難な箇所での調査ニーズが顕在化する中、「IBIS2」は、多数の下水道調査事例においてその有効性を示してきました。

国の方針においても新技術の導入が推奨されており、ドローン等の新たな手法を実務で活用するための体制整備が求められています。

こうした状況を受け、下水道調査分野における新たな技術的選択肢として、「IBIS2」について関係各所への紹介および意見交換を進めてまいりました。その中で、現場課題の解決に資する技術として評価をいただき、同分野におけるさらなる連携を見据え、賛助会員として公益社団法人 日本下水道協会へ入会する運びとなりました。

■「公益社団法人 日本下水道協会」について

「公益社団法人 日本下水道協会」は、下水道整備の急速な普及と健全な発達を目的として、東京オリンピックが開催された 1964 年に設立されました。以来、日本下水道協会は、下水道に関する調査研究を行い、会員である地方公共団体の下水道事業を支えると共に、下水道の急速な普及と健全な発展を図り公共用水域の水質保全に資し、国民生活の向上に寄与することを目的に事業を行っています。

HP : <https://www.jswa.jp/>

■今後の展望

今後、当社は日本下水道協会の賛助会員として、下水道事業者である全国の自治体関係者と積極的に連携してまいります。技術基準や指針、マニュアル、制度設計などの議論を通じて、狭小空間点検に特化したドローン「IBIS2」を、下水道調査における標準的な技術モデルの一つとして普及させることを目指します。

これにより、作業員の安全確保と調査の効率化を両立し、安心・安全な下水道調査の実現を通じて、誰もが安全な社会の構築に貢献してまいります。

▼株式会社 Liberaware について

株式会社 Liberaware は、「誰もが安全な社会を作る」をミッションに掲げ、世界でも珍しい「狭くて、暗くて、危険な」かつ「屋内空間」の点検・計測に特化した世界最小級のドローン開発と、当該ドローンで収集した画像データを解析し顧客に提供するインフラ点検・維持管理ソリューションを行っております。弊社は、ビジョンでもある「見えないリスクを可視化する」ことに邁進し続け、人々に安全で平和な社会をお届けします。

会 社 名：株式会社 Liberaware（リベラウェア）

代 表 者：関弘圭（ミン・ホンキュ）

所 在 地：千葉県千葉市中央区中央 3-3-1

設 立：2016 年 8 月 22 日

事業内容：

- ・ドローン事業：ドローン等を用いた調査・点検・測量サービス、自社開発のドローン等の販売・レンタルサービス
- ・デジタルツイン事業：ドローン等により取得したデータの画像処理、データ解析サービス、及び当社画像処理技術のライセンス提供
- ・ソリューション開発事業：ハードウェアからソフトウェアまで幅広いソリューションを提供する受託開発事業

U R L：<https://liberaware.co.jp/>

X アカウント：<https://x.com/liberaware>

〈本件に関するお問い合わせ先〉

株式会社 Liberaware 広報：前

TEL：090-9019-9057 / 043-497-5740 MAIL:pr@liberaware.com